



7月16日金曜日午後、漢検協会執行役員 山田昌哉が国本小学校を訪問し、「日本漢字能力検定協会賞」の授与を行いました。

この日の授業は午前中のみでしたので、児童のみなさんにはお会いすることができませんでしたが、児童のみなさんを代表して小林校長先生に賞状と楯をお受け取りいただきました。

授賞式の後、校長室にて小林校長先生と齋藤副教頭先生に、このたびのご受賞についてお話を伺いました。



国本小学校のホールにて。小林校長先生に賞状と楯をお受け取りいただきました。



■ 国本小学校の基盤は国語教育

国本小学校は国語教育を基盤とした英語教育・ICT教育に力を入れています。ALTによる英語授業は全学年で行っていますし、プログラミングの授業では電子機器に表示するのも、子ども達の入力する言語もすべて英語なのですが、これらは国語の力があってこそ。日本語を大切にしないと絶対に伸びません。

■ 子ども達に身につけてほしい3つの力

国本小学校の子ども達には3つの力を身につけてほしいと考えています。一つは「共生」。友達と仲良く、人種や肌の色の違いを超えて共に生きる力。2つ目は「自己決定行動力」。自分で考え、自分で答えを出し、行動する力のことです。3つ目は「主体性」。これからの未来を創る国本小学校の子ども達にはこれら3つの力を鍛えてほしいと願っています。

■ 漢検の取り組み

漢検に特化した取り組みはしていません。「自分で受検する級を決定し、その目標に向かって努力する」という主体性を大切にしており、受検する級も制限していません。中には3級などの高い目標を掲げる子どももいますが、一人一人に合わせて指導しています。

毎年、3年生と5年生は全員で受検します。子ども達自身も「1月には漢検を受検するんだ」としっかり意識していて、進級する前に「来年は何級を受けよう」「それまでに何をしよう」と合格までの道のりをイメージしています。4月に新しいクラスになった時には既にゴールを設定していますので、子ども達はかなり長い期間、漢字と向き合うこととなりますね。

検定は基礎学力の定着が目に見える形で表れるのがいいですね。今は残念ながら出来ませんが、これまでは最上級の合格者を全校生の前で表彰したり、今回のような受賞を全校生に報告したりしてきました。これは子ども達や保護者の方だけでなく、教員にとっても励みになっています。

■ 漢字が怖くない子ども達

国語教育を基盤とした教育を進める本校では、子ども達が積極的に読書をしています。漢字なんか怖くないのでしょうか。着実に読解力が育っています。

ある朝、本校の理事長が電車の中で国本小の子どもと乗り合わせた時のこと。その子は、どう考えても大人が読むような医学か科学の専門書を熱心に読んでいたそうです。ルビの打たれていない専門書であっても、興味のある書物を夢中で読み進められる。これも本校の国語教育が生きている、その実例といえるでしょう。